

産婦人科学

1 構成員

	平成22年3月31日現在	
教授	1人	
准教授	2人	
講師（うち病院籍）	2人	（ 2人）
助教（うち病院籍）	3人	（ 2人）
助手（うち病院籍）	0人	（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	1人	
医員	3人	
研修医	0人	
特任研究員	1人	
大学院学生（うち他講座から）	3人	（ 0人）
研究生	3人	
外国人客員研究員	0人	
技術職員（教務職員を含む）	0人	
その他（技術補佐員等）	7人	
合 計	26人	

2 教員の異動状況

金山 尚裕（教授）	（H11. 11. 1～現職）
杉原 一廣（准教授）	（H19. 3. 1～19. 3. 31 助教授；19. 4. 1～現職）
伊東 宏晃（准教授）	（H20. 7. 1～H21. 3. 31 講師；21. 4. 1～現職）
竹内 欽哉（講師）	（H19. 4. 1～H21. 10. 15 退職）
幸村 康弘（講師）	（H17. 7. 1～19. 3. 31 助手；H19. 4. 1～現職）
鈴木 一有（講師）	（H19. 6. 1～H21. 9. 30 助教；H21. 10. 1～現職）
宮部 勇樹（助教）	（H17. 7. 1～19. 3. 31 助手；H19. 4. 1～現職）
木村 聡（助教）	（H17. 6. 1～19. 3. 31 助手；H19. 4. 1～H20. 6. 30退職）
村上 裕介（助教）	（H20. 4. 1～H21. 6. 30退職）
中村 友紀（助教）	（H20. 10. 1～現職）
内田 季之（助教）	（H21. 6. 1～現職）
谷口千津子（特任助教）	（H22. 1. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	12編 （ 2編）

そのインパクトファクターの合計	23.15
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	14編 (12編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	6編 (6編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	2編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	1.83

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Tanaka A, Suzuki Y, Sugihara K, Kanayama N, Urano T: Inactivation of plasminogen activator inhibitor type 1 by activated factor X II plays a role in the enhancement of fibrinolysis by contract factors in-vinto. Life Sci: 220-225, 2009.
2. Itoh H, Kanayama N: Low birth weight and risk of obesity-a potential problem for the Japanese people. Current women's health reviews 5: 212-219, 2009.
3. Murakami H, Kohno E, Kohmura Y, Ozawa H, Itoh H, Sugihara K, Horiuchi K, Hirano T, Kanayama N: Antitumor effect of photodynamic therapy in mice using direct application of photofrin dissolved in lidocaine jelly. Photodermatol Photo 25: 259-263, 2009.
4. Kobayashi Y, Hayasaka T, Setou M, Itoh H, Kanayama N: Comparison of phospholipid molecular species between terminal and stem villi of human term placenta by imaging mass spectrometry. Placenta 31: 245-248, 2010.
5. Suzuki K, Itoh H, Kimura S, Sugihara K, Yaguchi C, Kobayashi Y, Hirai K, Sugimura M, Kanayama N: Chorangiogenesis and Placental Oxygenation. Congenital Anomalies 49: 71-76, 2009.
6. 伊東宏晃: PIH妊婦の栄養管理とエピジェネティクス 日本妊娠高血圧学会雑誌 17: 19-22, 2009.

インパクトファクターの小計 [6.83]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 大石彰, 伊東宏晃, 岩島覚: 妊娠中に羊水過多をきたしたOpitz G/BBB症候群の1例 日本周産期・新生児医学会雑誌 45: 1499-1504, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kawamura M, Itoh H, Yura S, Mogami H, Fujii T, Makino H, Miyamoto Y, Yoshimasa Y, Aoe S, Ogawa Y, Sagawa N, Kanayama N, Konishi I: Isocaloric high-protein diet ameliorates systolic blood pressure increase and cardiac remodeling caused by maternal caloric restriction in adult mouse offspring. Endocr J 56(5): 679-689, 2009.

2. Kawamura M, Itoh H, Yura S, Mogami H, Fujii T, Kanayama N, Konishi I: Angiotensin II receptor blocker candesartan cilexetil, but not hydralazine hydrochloride, protects against mouse cardiac enlargement resulting from undernutrition in utero. *Reprod Sci* 16(10): 1005-1012, 2009.
3. Kakogawa J, Sumimoto K, Kawamura T, Minoura S, Kanayama N: Transabdominal measurement of placental oxygenation by near-infrared spectroscopy. *Am J Perinat* 27(1): 25-29, 2010.
4. Mogami H, Yura S, Itoh H, Kawamura M, Fujii T, Suzuki A, Aoe S, Ogawa Y, Sagawa N, Konishi I, Fujii S: Isocaloric high protein diet as well as branched-chain amino acids supplemented diet partly alleviates adverse consequences of maternal undernutrition on fetal growth. *Growth Horm IGF Res.* 19: 478-485, 2009.
5. Hatakeyama S, Sugihara K, Nakayama J, Akama T, Suk-Man Wong, Kawashima H, Zhang J, Smith D, Ohyama C, Fukuda M, Fukuda MN: Identification of mRNA splicing factors as the endothelial receptor for carbohydrate-dependent lung colonization of cancer cells. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 106(9): 3095-3100, 2009.

インパクトファクターの小計 [16.32]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 金山尚裕：Preterm PROMの診断と管理 産婦人科治療98(4): 373-376. 永井書店
2. 伊東宏晃：予診，外診／妊娠と胎児の健康をくまなくチェック！ スクリーニング検査 徹底理解19 ペリネイタルケア 28(6): 10-12, 2009. メディカ出版
3. 伊東宏晃：血圧測定，尿検査／妊娠と胎児の健康をくまなくチェック！ スクリーニング検査 徹底理解19 ペリネイタルケア28(6): 13-16, 2009. メディカ出版
4. 金山尚裕：頸管炎 周産期医学 39(6): 691-694, 2009. 東京医学社
5. 金山尚裕：羊水塞栓症－DIC型後産期出血との関連について－ 産科と婦人科 76(9): 1091-1096, 2009. 診断と治療社
6. 金山尚裕：羊水塞栓症 産科救急Q&A～一次施設から三次施設までの対応～ 救急・集中治療 21(9・10): 1243-1247, 2009. 総合医学社
7. 伊東宏晃：生活習慣病との関連性／SGA児の長期予後 周産期医学 245-247, 2010-2. 東京医学社
8. 伊東宏晃：常位胎盤早期剥離と産科DIC－胎児死亡を合併した場合に分娩様式について－／特集 産科救急疾患とその対応 -こんな時、どうする？- 産婦人科治療 99: 225-231, 2009.
9. 伊東宏晃：増加する低出生体重／特集 いま周産期領域に増えるリスク、産婦人科の実際 58: 1957-1961, 2009.
10. 伊東宏晃：妊娠中からの発達支援 栄養・食育／周産期医療がめざすディベロップメンタルケア－胎児期から始まる発達支援、周産期医学 40: 585-588, 2010.
11. Itoh H, Kanayama N: Low birth weight and Risk of Obesity -Potential Problem of Japanese People- *Current Women's Health Reviews.* 5: 212-219, 2009

12. 内田季之：重鉛の有用性を探る 産婦人科領域における重鉛の有用性 治療 91: 70-76, 2009.
インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 木村聡, 金山尚裕：羊水塞栓症の血清補助診断 臨床検査53(4): 481-484, 2009. 医学書院
2. Fukuda MN, Sugihara K: Signal Transduction Upstream and Downstream of Trophinin in Human Embryo Implantation. Indian J Physiol Pharmacol 54(5): 33-40, 2010.
インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 竹内欽哉：妊娠のなりたち イラストで学ぶ妊娠・分娩・産褥の生理 メディカ出版
2. 金山尚裕：子宮内胎児発育遅延 1046-1047 今日の治療指針2010 医学書院
3. 伊東宏晃：問診／妊婦健康診査パーフェクトマニュアル ペリネイタルケア 新春増刊 373: 23-26, 2010. メディカ出版
4. 伊東宏晃：シェーグレン症候群患者の妊娠・出産／シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 住田孝之, 江口勝美編 診断と治療社 156-162, 2009.
5. 伊東宏晃：妊産婦の栄養指導/講義録 産科婦人科学 石原 理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編 メディカルレビュー社 314-316, 2010.
6. 杉原一廣：胚接着分子トロフィニンを介する細胞内情報伝達機構と着床率・妊娠率の改善を目指したトランスレーショナルリサーチHORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 16 (1): 68-72, 2009.

(5) 症例報告

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Muramatsu K, Itoh H, Yamasaki T, Nakamura Y, Kobayashi Y, Hirai K, Suzuki K, Sugihara K, Sugimura M, Kanayama N: A case of a huge placental lake; prenatal differential diagnosis and clinical management. J Obstet Gynecol Res 36(1): 165-169, 2010.
2. Matsuura T, Sugihara K, Kohmura Y, Sugimura H, Kanayama N: Rare form of extraovarian peritoneal serous papillary carcinoma with solitary tumor in the abdominal wall: A case report and literature review. J Obstet Gynecol Res. 35(6): 1142-1147, 2009.

インパクトファクターの小計 [1.83]

4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数 (出願中含む)	1件

1. METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1 -BINDING COMPOUNDS
米国, 欧州, 日本において平成21年12月特許出願済

5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (1,090万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1件 (100万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	1件 (200万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	18件 (890万円)

(1) 文部科学省科学研究費

杉原一廣(代表者) 基盤研究(B) 腫瘍血管内皮を標的とする分子標的治療薬の開発 290万円
(継続)

伊東宏晃(代表者) 基盤研究(B) 脂肪組織を核とした臓器間クロストークの視点から成人病胎
児起源説の基礎的解析 570万円(新規)

金山尚裕(代表者) 挑戦的萌芽 非侵襲的胎児パルスオキシメーターの開発 230万円(新規)

(2) 厚生労働科学研究費

金山尚裕(分担者) 妊産婦死亡及び乳幼児死亡の原因究明と予防策に関する研究 100万円(新
規) 代表者 国立循環器病センター周産期治療部 池田智明

(4) 財団助成金

伊東宏晃(代表者) 妊婦の栄養摂取が脂肪代謝に及ぼす影響の解析-児が成人後にメタボリック
クシンドロームを発症するリスク因子の形成という視点から- 200万円
(新規)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	25件
(2) シンポジウム発表数	2件	8件
(3) 学会座長回数	1件	24件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	32件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Itoh H: Perinatal nutrition and cardiovascular remodeling, The Satellite Symposium of ICE 2010, Nagoya, Japan.

2. Itoh H: Developmental Origins of adult Obesity – A Potential Problem un Japanese People-, The 14th International Congress of Endocrinology (ICE2010), Kyoto, Japan, 2010.

4) 国際学会・会議等での座長

1. Itoh H: The 3rd SGI International Summit 2009, Sendai, Japan

5) 一般発表

ポスター発表

1. Yata D: Chorangiogenesis and placental oxygenation, The 3rd SGI International Summit 2009, Sendai, Japan

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 伊東宏晃: 低出生体重児の長期予後 – 疫学から学ぶこと, その限界と今後の課題 – 第61回日本産婦人科学会学術講演会 4月 京都
2. 伊東宏晃: 予定日を超えた妊婦に対する分娩誘発 – その理論とピットフォール – 奇松会勉強会 4月 浜松
3. 金山尚裕: 女性ホルモン・胎盤ホルモンとアンチエイジング 第5回日本胎盤臨床研究会 5月 東京
4. 杉原一廣: 精子形成・着床現象・初期発生の細胞内情報伝達系を分子レベルで解明し妊娠率・着床率を改善する方法と新規薬剤の開発を目指したトランスレーショナルリサーチ 財団法人 神澤医学研究振興財団 第11回講演会 5月 東京
5. 金山尚裕: 女性のヘルスケアと女性ホルモン 岳南産婦人科医会講演会 6月 富士
6. 金山尚裕: 羊水塞栓症と産科DIC 第9回熊本女性医学講座 6月 熊本
7. 伊東宏晃: 疫学から学ぶ低出生体重児の長期予後 – その限界と今後の課題 大阪大学栄養研究会 6月 大阪
8. 杉原一廣: 癌の予防、診断、新規分子標的薬剤 第167回袋井病診カンファレンス (がん診療連携拠点病院 がん医療従事者研修会) 6月 袋井
9. 伊東宏晃: 疫学から学ぶ低出生体重児の長期予後 第2回伊勢志摩DOHaDカンファレンス 7月 津
10. 伊東宏晃: 疫学から学ぶ低出生体重児の長期予後 ゆずの木周産期病診連携セミナー 7月 埼玉
11. 伊東宏晃: PIH妊婦の栄養管理とエピジェネティクス 第30回日本妊娠高血圧学会 8月 岡山
12. 杉原一廣: 癌の予防、診断、新規分子標的薬剤 平成21年度がん診療連携拠点病院 がん医療従事者研修会 8月 浜松
13. 杉原一廣 基礎研究から創薬へ 平成21年キッセイ薬品工業中央研究所講演会 8月 長野
14. 伊東宏晃: 症例から学ぶ深部頸管裂傷 第22回静岡県母性衛生学会 9月 静岡

15. 金山尚裕：羊水塞栓症と産科DIC 第96回徳島周産期研究会 9月 徳島
16. 伊東宏晃：第28回助産師・看護師のための実践産婦人科講座 9月 浜松
17. 杉原一廣：癌の予防、診断，新規分子標的薬剤 平成21年度がん診療連携拠点病院 がん医療従事者研修会 9月 浜松
18. 伊東宏晃：常位胎盤早期剥離の胎児死亡にどう対応するか～DICの評価と制御の立場から～ 第一回びわこ周産期研究会 10月 滋賀
19. 金山尚裕：静脈血栓症と産科DIC 岡山産婦人科VTEセミナー 10月 岡山
20. 杉原一廣：糖鎖と糖鎖をリガンドとする受容体を標的とする癌治療薬の開発 第2回Recent Advance in Tumor Angiogenesis 10月 浜松
21. 杉原一廣：糖鎖をmimicするペプチドをtargeting vehicleとした新規分子標的治療薬 「新たな治療を求めて」教育セミナー 第47回日本癌治療学会学術集会 10月 横浜
22. 伊東宏晃：妊婦の栄養指導 浜松医科大学第69回NST勉強会 1月 浜松
23. 伊東宏晃：重症産科出血例の経験 浜松医科大学麻酔科集会 1月 浜松
24. 伊東宏晃：産科医療と生活習慣病の関わり 浜松医師会第277回生涯教育研修会 1月 浜松
25. 伊東宏晃：症例から学ぶ産褥出血のリスクマネジメント 第8回日本予防医学リスクマネジメント学会 東京 3月

3) シンポジウム発表

1. 伊東宏晃：生活習慣病の根源を探る - DOHaDから - 「Barker仮説における心血管障害発症リスク形成機序の解析 - アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬投与による予防的介入をめざして -」 第9回日本抗加齢学会 5月 東京
2. 杉原一廣：「着床研究の分子生物学的アプローチ」トロフィニンの機能 第27回日本受精着床学会 8月 京都
3. 伊東宏晃：21世紀の妊産婦における食育 「食育の視点から見た妊娠高血圧症候群」 第33回日本産科婦人科栄養・代謝研究会 7月 金沢
4. 杉原一廣：「着床をめぐる最近の話題」ヒト着床における細胞内情報伝達系 第27回日本ヒト細胞学会学術集会 8月 東京
5. 金山尚裕：産婦人科医師増加のための大学の取り組み 平成21年度日本産婦人科医会関東ブロック協議会 9月 長野
6. 伊東宏晃：「視床下部とDOHaD」SGA 1st Anniversary Symposium 11月 東京
7. 小泉るい：女性の諸症状に対する頻用漢方 浜松漢方シンポジウム 3月 浜松
8. 宮部勇樹：タキソールによる末梢神経障害に対する漢方薬（疎経活血湯，芍薬甘草湯）の効果 - 電流知覚Neurometerによる閾値検査Neurometerによる評価 - 浜松漢方シンポジウム 3月 浜松

4) 座長をした学会名

金山尚裕 第61回日本産科婦人科学会総会 4月 京都

金山尚裕 第2回静岡県血栓と血管フォーラム 4月 浜松
 金山尚裕 第19回日本婦人科・新生児血液学会 6月 札幌
 伊東宏晃 第117回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会 6月 東京
 伊東宏晃 第2回伊勢志摩DOHaDカンファレンス 7月 津
 金山尚裕 第45回日本周産期・新生児医学会 7月 名古屋
 伊東宏晃 第45回日本周産期・新生児医学会 7月 名古屋
 金山尚裕 HRTガイドラインセミナー 7月 浜松
 杉原一廣 浜松医科大学医学部産婦人科学講座公開セミナー 7月 浜松
 金山尚裕 第33回日本産科婦人科栄養・代謝研究会 7月 金沢
 金山尚裕 卵巣がん治療講演会 8月 静岡
 伊東宏晃 静岡早産治療講習会 8月 静岡
 金山尚裕 第2回静岡県胎児・周産期・新生児臨床研究会 9月 静岡
 金山尚裕 第6回静岡がん治療フォーラムがんプロフェッショナル養成プラン 9月 浜松
 伊東宏晃 第30回日本肥満学会 10月 浜松
 金山尚裕 第17回日本胎盤学会 10月 東京
 伊東宏晃 第118回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会 11月 埼玉
 伊東宏晃 武田薬品主催学術講演会 11月 浜松
 金山尚裕 第54回日本生殖医学会 11月 金沢
 金山尚裕 第24回日本生殖免疫学会 11月 東京
 伊東宏晃 平成21年度秋季静岡県産婦人科学会静岡県地方部会 11月 浜松
 金山尚裕 第2回浜松VTE予防と治療研究会 1月 浜松
 金山尚裕 第9回東海不妊内分泌研究会 1月 浜松
 金山尚裕 浜松漢方シンポジウム 3月 浜松

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

金山尚裕 日本産婦人科学会代議員
 金山尚裕 日本胎盤学会理事
 金山尚裕 日本妊娠高血圧学会理事
 金山尚裕 日本産婦人科学会関東連合地方部会理事
 金山尚裕 日本栄養代謝学会理事
 金山尚裕 日本周産期新生児学会評議員
 金山尚裕 日本母性衛生学会評議員
 金山尚裕 日本産婦人科新生児血液学会評議員
 金山尚裕 日本産婦人科ME学会常任幹事
 金山尚裕 日本結合組織学会評議員
 金山尚裕 中部不妊学会評議員
 金山尚裕 静岡県ウィルス研究会幹事
 金山尚裕 静岡県母性衛生学会常任理事

- 金山尚裕 日本産婦人科医会静岡県支部理事
金山尚裕 The Journal of Obstetrics and Gynecology Research査読委員
金山尚裕 Program committee of 3rd Society for Gynecologic Investigation (SGI) Summit 2009学科会主催委員
杉原一廣 日本産科婦人科学会代議員
杉原一廣 日本産科婦人科学会関東連合地方部会代議員
杉原一廣 静岡県治験ネットワーク支援倫理委員会委員
杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員
杉原一廣 静岡CTC (Cancer Therapy Conference) 世話人
杉原一廣 静岡サイコオンコロジー研究会世話人
杉原一廣 JOGR (The Journal of Obstetrics and Gynecology Research) 査読委員
杉原一廣 Kanto Journal of Obstetrics and Gynecology査読委員
杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡地方部会誌査読委員
杉原一廣 日本産科婦人科学会静岡県地方部会日産婦専門医制度委員会委員
杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員会医員
伊東宏晃 日本周産期・新生児医学会評議員
伊東宏晃 日本内分泌学会代議員、評議員
伊東宏晃 日本心血管内分泌代謝学会評議員
伊東宏晃 日本妊娠高血圧学会代議員、評議員
伊東宏晃 日本産科婦人科学会：平成21年度－平成23年度；周産期委員会，周産期医療における未承認薬の承認にむけての活動委員
伊東宏晃 日本産科婦人科学会：平成21年度－平成23年度；周産期委員会，早産のリスク因子の解明と具体的な予防法確立に関する小委員会委員
伊東宏晃 Program committee of 3rd Society for Gynecologic Investigation (SGI) Summit 2009学科会主催委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	2件

(2) 外国の学術雑誌の編集

- 伊東宏晃：Journal of Developmental Origins of Health and Disease (ISSN: 2040-1744)
伊東宏晃：Medical Biochemistry (ISSN: 1027-0256)

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 金山尚裕：Journal of Obstetrics and Gynecology Research (ISSN: 4993-0711) 1回
伊東宏晃：Journal of Obstetrics and Gynecology Research (ISSN: 4993-0711)
杉原一廣：Journal of Reproductive Immunology 2回 (USA)
杉原一廣：Kanto Journal of Obstetrics and Gynecology 2回 (Japan)

9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	10件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	2件

(1) 国際共同研究

杉原一廣：腫瘍血管内皮細胞を標的とするペプチドを用いた新規抗癌剤の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

論文：Proc Natl Acad Sci U S A. 3; 106 (9) : 3095-100, 2009.

特許：METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1 -BINDING COMPOUNDS

米国, 欧州, 日本において平成21年12月特許出願済 Sugihara K, Kanayama N. et al.

杉原一廣：子宮内膜症に対する分子標的治療薬の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

杉原一廣：新規超早期診断法の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA), 浜松ホトニクス株式会社

杉原一廣：着床率を改善する薬剤と方法の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

杉原一廣：精子運動能と受精率を改善する薬剤の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

杉原一廣：子宮体癌に対する分子標的治療薬の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

杉原一廣：着床における接着分子トロフィニンの分子機構解析 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

杉原一廣：着床障害（不妊症）の原因遺伝子解析 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

杉原一廣：神経分化における新規分子（同定済み）の機能解析 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

杉原一廣：Si RNA・ケミカルライブラリー, 次世代シーケンサーを用いた新規薬剤の開発 Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA)

(2) 国内共同研究

金山尚裕：子宮筋の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（昭和大学, 国立循環器病センター, 浜松ホトニクス）

金山尚裕：コンピュータシミュレーションによる難産診断装置の開発（川崎医療短大）

金山尚裕：ウリナスタチンによる早産防止の検討（日本早産予防研究会）

(3) 学内共同研究

金山尚裕：子宮頸癌のPDT治療（光量子センター，生命科学）

杉原一廣：ペプチドを用いた分子標的診断技術の開発 間賀田泰寛（光量子医学研究センター）

10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	4件

1. 金山尚裕：子宮筋の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（浜松ホトニクス）
2. 杉原一廣：腫瘍血管内皮細胞を標的とするペプチドを用いた新規抗癌剤の開発
3. 杉原一廣：子宮内膜症に対する分子標的治療薬の開発
4. 杉原一廣：新規超早期診断法の開発（浜松ホトニクス）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 光学的手法を用いた胎盤の酸素動態を測定するための機器の開発

胎児の非侵襲的生化学的モニタリング法を開発を行っている。胎盤の酸素動態を直接あるいは間接的に監視できる機器の開発に成功した。これを用いて臨床的有用性を検討した。平成17年度より他施設共同研究を開始した。

（金山尚裕）

2. 光増感剤の局所投与キットの開発

現在子宮頸癌の光線力学治療に使用されているフォトフィリンは光過敏性物質であるため、治療後約4週間の入院が必要であった。局所投与で静脈投与と同程度の効果を発揮するキットを開発した。これを用いると入院期間が大幅に短縮されることが考えられる。今後臨床応用を行う予定である。

（金山尚裕）

3. 大静脈血栓症の血液凝固学的予知マーカーは従来よいものは存在しなかった。プロテインCの感受性を測定する簡易方法を開発した。これを用いて妊婦の深部静脈血栓症，肺血栓塞栓症の予知が可能になる。

（金山尚裕）

4. 豊橋技術科学大学の協力を得て，アルギニン・葉酸サプリメント（商品名：エンゼルストーク）を発売した。

（金山尚裕）

5. 腫瘍血管内皮細胞を標的とするペプチドを用いた新規抗癌剤の開発

論文：Proc Natl Acad Sci U S A. 3; 106(9): 3095-100, 2009

特許：METHODS AND COMPOSITIONS RELATED TO ANNEXIN 1 -BINDING COMPOUNDS

米国，欧州，日本において平成21年12月特許出願済

Sugihara K, Kanayama N. et al.

(杉原一廣)

6. 精子運動能と受精率を改善する薬剤の開発

精子運動能を調節し卵発育に関与する新規分子機構を解明

(杉原一廣)

7. 着床における接着分子トロフィニンの分子機構解析

本学より共同研究機関：Sanford-Burnham Medical Research Institute (USA) へ田村直顕が
留学

(杉原一廣)

15 新聞，雑誌等による報道

1. 「浜松医大サブリ参入」 中日新聞 2009年11月21日